

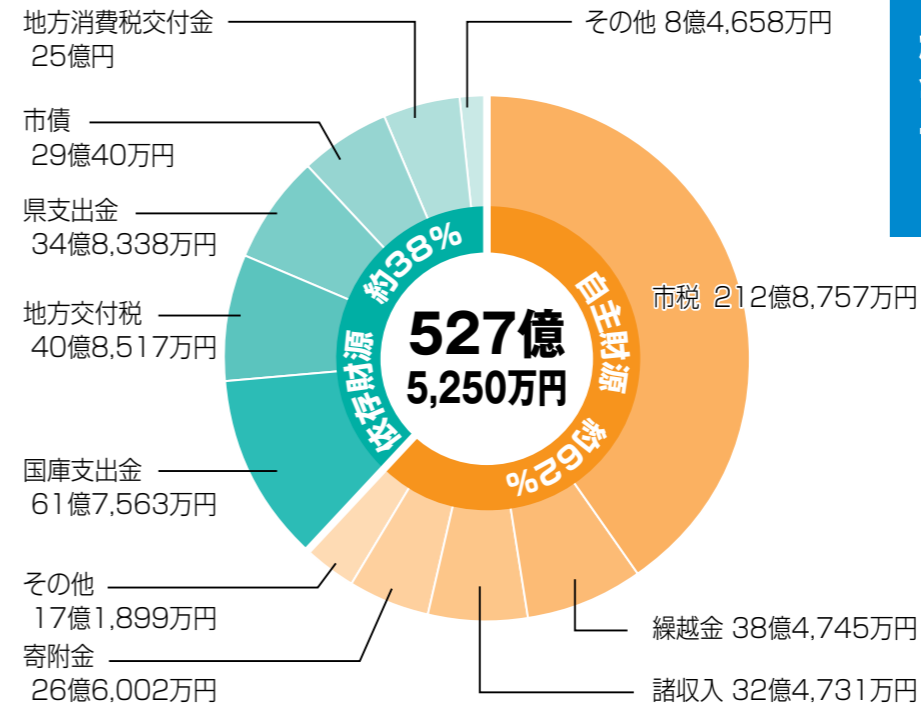
藤枝市の家計簿

「選ばれるまち藤枝づくり」

平成28年度に市民の皆さんに納めていただいた税金は、よりよい市民生活を実現するために、さまざまな形で活用しました。税金の使い道などを市民の皆さんに知っていただくために、毎年2回、市の財政状況を公表しています。今回は、平成28年度決算をお知らせします。☎ 財政課 643・3234

一般会計

歳入



民生費

放課後児童健全育成事業施設整備
9,478万円

子どもの健全な育成を図るため、放課後児童クラブの施設の長寿命化工事のほか、新たに青島小学校と青島東小学校の敷地内に施設を建築しました。



土木費

蓮華寺池公園環境整備事業
1億9,000万円

憩いと安らぎを提供する観光拠点として、来園者の利便性の向上を図るため、第二駐車場の整備のほか、休憩施設やイベント開催時のにぎわい創出を目的とした四阿などを整備しました。



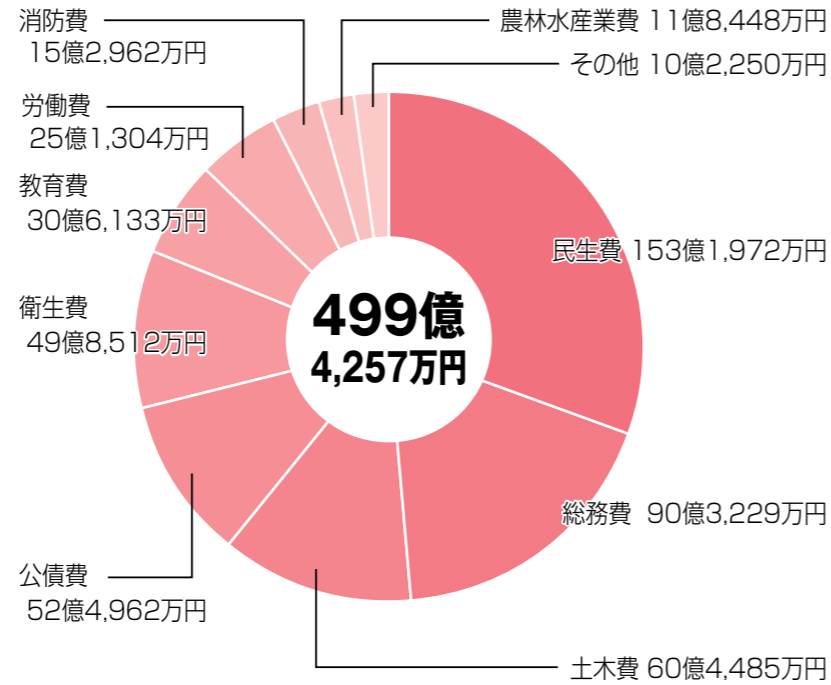
消防費

消防団施設整備事業
1億5,611万円

消防活動環境改善を図るため、岡部地区の各班の拠点となる消防車庫の改修工事および消防団詰所6棟を整備しました。これにより、市内30班すべての詰所整備が完了しました。



歳出



総務費

ふじえだ花回廊事業
1,078万円

市民が花に触れ、楽しむ機会を創出し、花のまちづくりの機運の醸成を図るため、市内で活動する団体や企業などへの助成のほか、蓮華寺池公園において、市民の皆さんが花を植えた5,100個のプランターを並べて、ギネス世界記録®に挑戦する市民参加型イベントなどを開催しました。(3,117.17mでギネス世界記録に認定)



地方創生加速化交付金事業
7,028万円

本市の地域産業を活性化させ、人口の維持・拡大を図るため、地域ビジネス創出・支援事業などを実施。また、移住者が求める子育て・教育環境と、将来に向けたキャリア教育を地域や企業と連携して一体的に提供しました。その他、ふじえだロボットアカデミー事業などを実施しました。

●歳入は、平成27年度より約42億3千万円増
歳入（市の収入）は、平成27年度と比べて全体で約42・3億円増加しました。
主な要因としては、ふるさと応援寄附金の影響により、寄附金が約24・6億円増加したこと、法人市民税や固定資産税が増えたことにより、市税が約5・2億円増加したことが挙げられます。

●歳出は、平成27年度より約52億6千万円増
歳出（市の支出）は、平成27年度と比べて全体で約52・6億円増加しました。
主な要因としては、地方応援制度事業費や基金積立により、総務費が約42・8億円増加したこと、年金生活者等支援臨時福祉給付金や地域型保育給付費の影響により、民生費が約10・4億円増加したことが挙げられます。

〈財政用語解説〉

歳入

自主財源

市税や市の施設の使用料など、市が独自で調達できるお金

【市税】市民税や固定資産税など、市民の皆さんが納めた税金

【繰越金】前年度から本年度へ持ち越したお金

【諸収入】貸付金元利収入など

【寄附金】ふるさと応援寄附金など

【その他】公共施設の使用料、繰入金、各種手数料、財産収入など

依存財源

地方交付税や国・県支出金など、国や県から市に入ってくるお金

【国庫支出金・県支出金】市の特定の事業に対し、財源の一部として国や県から交付されるお金

【地方交付税】地方の財政格差をなくすため、国から地方公共団体へ交付されるお金

【市債】道路や公共施設を整備するために、国や銀行などから長期にわたって借り入れるお金

【地方消費税交付金】消費税8%のうち1.7%が地方消費税で、一定の基準により国から配分されるお金。消費税増税による増収分は、社会保障経費に充てます。

【その他】地方譲与税、地方特例交付金、自動車取得税交付金など

歳出

【民生費】高齢者福祉や障害福祉、児童福祉などの経費

【総務費】総務管理や企画・税務事務などの経費

【土木費】道路や公園の施設整備・維持管理などの経費

【公債費】市の借金などの返済経費

【衛生費】ごみ、し尿処理、予防接種、健康診断などの経費

【教育費】学校や地区交流センターなどの改築・維持管理などの経費

【労働費】労働対策などの経費

【消防費】消火・救急活動などの経費

【農林水産業費】農林業の振興などの経費

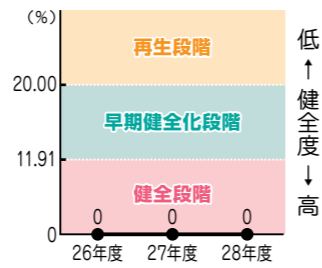
【その他】議会費、災害復旧費など

藤枝市の財政状況

本市の財政状況を、地方公共団体の財政状況を判断する5つの指標でみると、いずれの項目も早期に改善しなければならぬ基準（早期健全化の基準）を下回り、健全な状態です。直近3年間の状況をお知らせします。

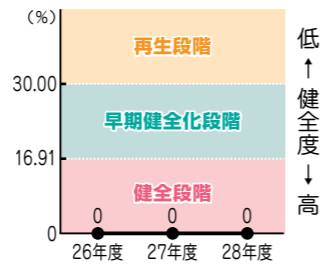
① 実質赤字比率→赤字なし

一般会計に土地取得特別会計を加えた普通会計の赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示すものです。
本市は、両会計で黒字であるため、該当しません。



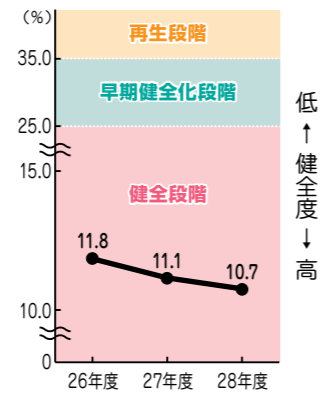
② 連結実質赤字比率→赤字なし

市のすべての会計の赤字や黒字を合算し、市全体の財政運営の悪化の度合いを示すものです。
本市は、全会計で黒字であるため、該当しません。



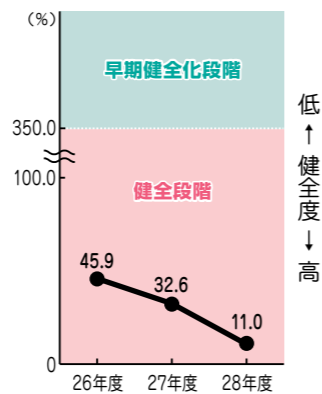
③ 実質公債費比率→0.4ポイント改善

借入金の返済にかかる負担の重さを示す指標で、市のすべての会計と一部事務組合（志太広域事務組合など）が対象範囲となります。
本市は、平成27年度（11.1%）と比較すると、0.4ポイント改善され10.7%となりました。
改善の主な要因は、地方債残高の削減により公債費が減少したことが挙げられます。



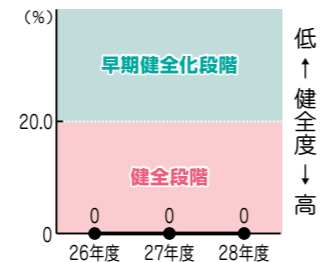
④ 将来負担比率→21.6ポイント改善

市のすべての会計の借入金や将来払っていく可能性のある負担などを、現時点で指標化し、財政への圧迫度を表すものです。
本市は、平成27年度（32.6%）と比較すると、21.6ポイント改善され11.0%となりました。
改善の主な要因は、一般会計の地方債残高の減少や、基金積立の増額が挙げられます。



⑤ 資金不足比率→資金不足なし

公営企業会計と簡易水道・公共下水道・農業集落排水事業の3つの特別会計の資金不足額の事業規模に対する比率で、経営状況の悪化の度合いを示すものです。
本市は、すべての会計において該当はありません。



事業を効果的に行うために、基金(貯金)を新設

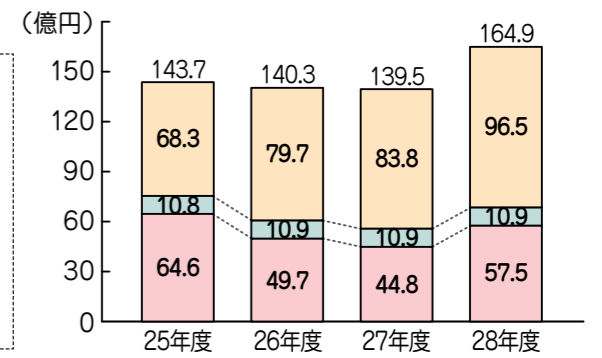
市の事業を効果的・効率的に進めていくために、いくつかの基金を積み立てています。平成28年度は、財政調整基金約12.7億円を積み立てたほか、ふるさと応援寄附金を活用した未来を創るふるさと応援基金約9.3億円や、公共施設長寿命化対策に対応するため公共施設等総合管理基金7億円を新設しました。

各種基金の積立額

財政調整基金
財源に余裕がある年度に積み立て、財源が不足する年度に活用します。

減債基金
市債の繰り上げ償還などのために積み立てているものです。

その他の基金

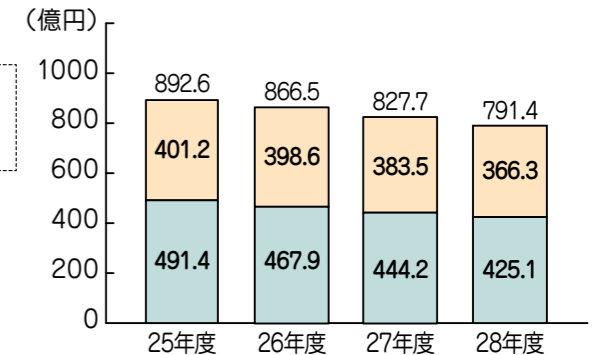


合併以降、市債(借金)残高は、8年連続で減少

道路整備などのために借りたお金の残高は、約791.4億円となり、合併以降8年連続で減少。合計で約242.2億円（23.4%）減りました。

市債残高

特別会計・企業会計
一般会計



特別会計・公営企業会計

特別会計決算額

国民健康保険や介護保険といった制度に伴う事業や、公共下水道および農山村地域の生活排水処理などの特定の事業を行うための会計です。

特別会計	収入額	内容
	支出額	
国民健康保険事業	165億1,693万円	保険給付費など
	161億3,264万円	
簡易水道事業	3,134万円	簡易水道供給のための施設維持管理費など
	3,134万円	
土地取得	342万円	駅南土地区画整理区域内用地の一般会計への売り払いなど
	342万円	
公共下水道事業	37億2,148万円	浄化センターの施設整備など
	37億1,861万円	
駐車場事業	2,619万円	駅前駐車場の維持管理費など
	2,451万円	
農業集落排水事業	8,739万円	農山村地域の施設維持管理費など
	8,739万円	
介護保険	112億1,341万円	介護サービス給付費など
	108億2,614万円	
後期高齢者医療	14億6,418万円	広域連合への納付金など
	14億6,213万円	

公営企業会計決算額

市では、病院事業と水道事業で、民間企業に準じた会計の方法を採っています。事業収支が収益状況を表し、この差し引きがいわゆる黒字・赤字といわれます。資本的収支とは、収益以外の収入と支出のことで、施設の整備や借入金の返済などです。

病院事業会計

区分	決算額	内容
病院事業収益	159億4,996万円	診療に必要な医師や看護師などの人件費、薬の購入費など
病院事業費用	163億4,036万円	診療に必要な医師や看護師などの人件費、薬の購入費など
資本的収入	10億5,200万円	医療機器の購入や借入金の返済など
資本的支出	19億4,459万円	医療機器の購入や借入金の返済など

水道事業会計

区分	決算額	内容
水道事業収益	25億5,953万円	上水道供給のための施設維持管理費など
水道事業費用	19億8,185万円	上水道供給のための施設維持管理費など
資本的収入	5億 415万円	水道管の耐震化工事や借入金の返済など
資本的支出	12億3,875万円	水道管の耐震化工事や借入金の返済など